

三重大学生『科学的地域環境人材』資格取得のための学習要項(G)

○まえがき

『科学的地域環境人材』育成事業は、「環境を科学的に判断・評価し新しい環境価値を創造しつつ、地域で活躍できる人材」を育成することを目的として環境教育を行い、その学習結果が目標基準を満たしたことを証するために、三重大学生「国際環境教育研究センター」（以下センター）が『科学的地域環境人材』資格（以下「当該資格」という）を認定・発行する事業である。

この学習要項は、三重大学生および大学院学生（正規生）（以下「受講者」という）が当該資格を取得するための学習要件などを示したものである。

当該資格の取得は、三重大卒業・大学院修了のための単位とは直接関連しないが、特定の三重大卒業・大学院修了のための授業単位修得が、当該資格の取得に有効な場合がある。

1. 科学的地域環境人材 2つの資格

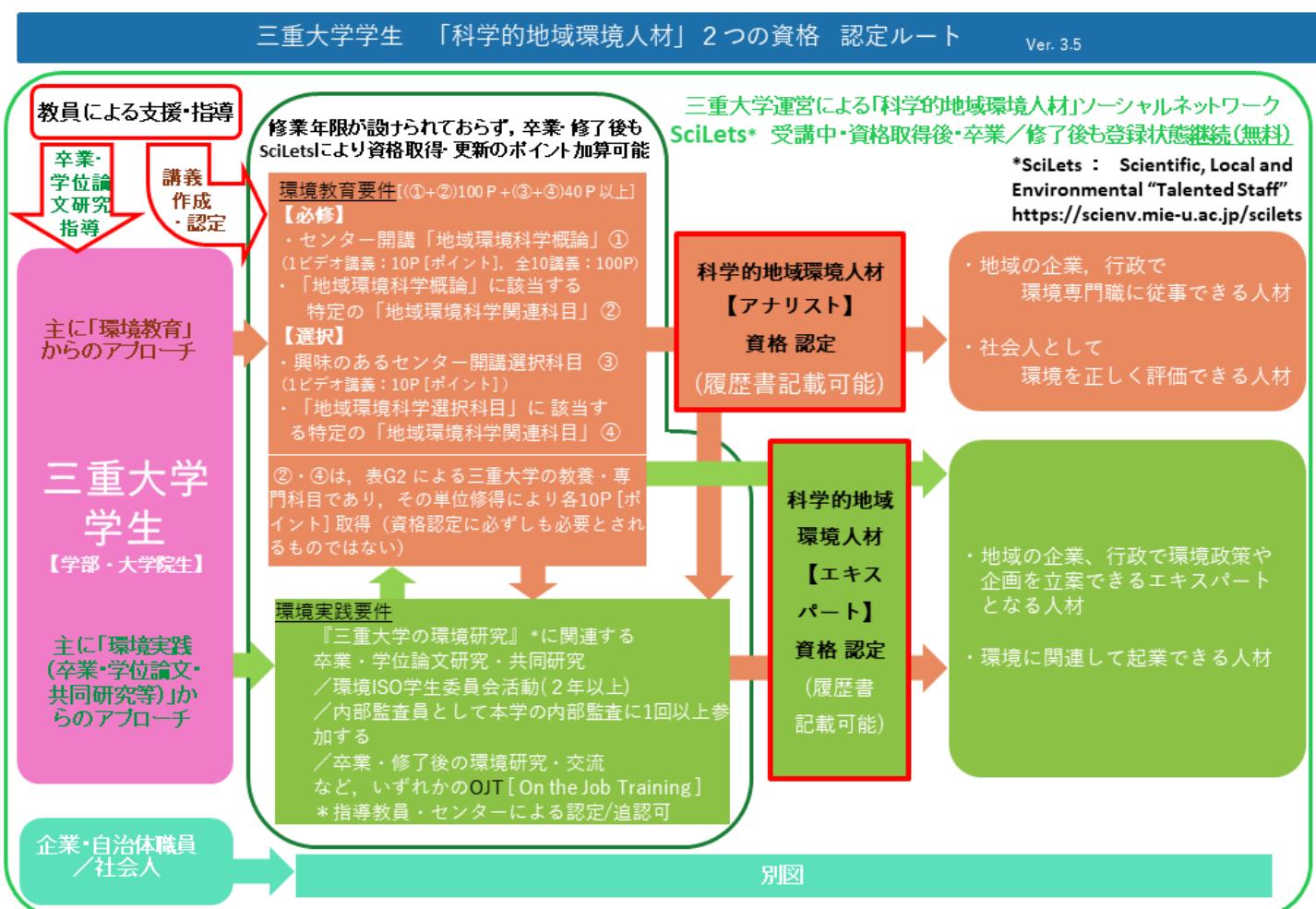


図 G 1 『科学的地域環境人材』 2つの資格

三重大学生『科学的地域環境人材』資格には、図 G 1 のように「Analyst」と「Expert」の2つの資格がある。

「アナリスト」資格は、環境教育要件を満たすことにより取得することができる。

「エキスパート」資格は、環境教育要件と環境実践要件の両方を満たすこと（満たす順序には関わらない）により取得することができ、「アナリスト」資格を包含する。

従って、当初「アナリスト」資格を目指していた受講者がその取得後、環境実践要件を満たすことにより「エキスパート」資格を取得することができ、その後は「エキスパート」と称する。

また「アナリスト」資格を目指していた受講者がその途中で環境実践要件を満たし、さらに環境教育要件を満たすことにより「エキスパート」資格を取得することができる。

あるいは、当初から環境実践要件に主眼を置いて活動しこれを満たしたのち、環境教育要件を満たした受講者はその時点で「エキスパート」資格を取得することができる。

2. 資格の保持

一度「アナリスト」あるいは「エキスパート」資格を取得した受講者は、その後資格取得要件が変わっても、次の資格保持要件を満たす限り、当該資格はそのまま保持される。

『資格保持要件』：資格取得後は、サイレッツ（ここでは SciLets ポータルサイトを指す）に加入を継続し（特に届け出不要）、その情報により、世界情勢や国内外法令などの状況に合わせ、当学習システムなどをを利用して知識をアップデートすること。

その結果、一度取得した「アナリスト」あるいは「エキスパート」資格は、サイレッツの登録が継続されている限り有効である。

なお、資格取得以前に、個人が資格取得のために積み増した学習結果であるポイント数は、上記『資格保持要件』と同等な状況において保持される。

3. 学期、環境教育要件および環境実践要件の修業期間

当該資格は、本事業に加入時点（申込時点）の学期（各年度前期：4月1日～9月30日、および後期：10月1日～翌年3月31日）の学習要項の資格取得要件が満たされることにより取得される。なお、取得要件が改訂されるのは、各学期の開始時点である。

当該資格の環境教育要件および環境実践要件の修業年限は特に設けない。

本事業に加入した時点（申込時点）の学期の資格取得要件を満たした後、資格取得申請をもって資格を取得することができる。

受講者が三重大学を卒業または大学院を修了した後の資格取得要件は、本事業に加入した時点（学生時）の「社会人用」学習要項(S)の資格取得要件が適用されるものとし、卒業・修了後に資格取得の要件を積み増して資格取得を目指すためには、学生であった時期に取得した環境教育要件および環境実践要件の達成状況を合算することができる。この場合、必修科目（概論）および選択科目4科目までは、学生である期間を過ぎても無料である。ただし、卒業・修了後に5科目目以降の選択科目を申請する場合には有料となる。

4. 環境教育要件

4.1 「地域環境科学」科目群（全てビデオ講義）と各科目のポイント

環境教育要件は、基本的に、センター開講「地域環境科学」科目群（全てビデオ講義）の学習により、以下に記載する必要ポイント数を取得することにより満たされる。

受講者が当該資格（特に指定しない限り、「アナリスト」と「エキスパート」資格いずれをも指すものとする）を取得しようとする場合、センター開講「地域環境科学」科目群のうち、表G 1 に示す地域環境科学必修科目 100 ポイント（1.5 時間の 10 科目のビデオ講義をまとめて「地域環境科学概論」と呼ぶ：全てビデオ講義）と、別紙「開講科目一覧」に示す地域環境科学の中の選択科目（全てビデオ講義）を 40 ポイント以上、合計 140 ポイント以上を取得する必要がある。

なお各科目とも、1 科目は 1.5 時間のビデオ講義を標準とし、その修得により受講者にはそれぞれ 10 ポイントが付与される。

選択科目 4 科目目までは、初期登録時の申請を必要とする。さらに 5 科目目以降の選択科目については、必要に応じ、別途申請する。

4.2 三重大学学士あるいは大学院修士・博士課程（いずれも正規課程）の卒業または修了単位

（資格認定に必ずしも必要とされるものではない）

三重大学の学士あるいは大学院修士・博士課程（いずれも正規課程）において、表G 2 に指定される地域環境科学関連教養教育科目または専門教育科目（大学院の科目を含む）の修得（卒業・修了単位の修得）により、表 G 1 および別紙「開講科目一覧」で規定する「地域環境科学」科目群の特定科目と同等の科目を修得したものと認め、表G 2 により規定される「地域環境科学」のポイント（特に定めない限り 1 科目 10 ポイントとする）を取得することができる。

4.3 ビデオ講義等に対応しない環境教育要件ポイント（資格認定に必ずしも必要とされるものではない）

（1）三重大学環境 ISO 内部監査員資格取得と内部監査実施

三重大学環境 ISO 内部監査員資格を取得し、さらに内部監査実施に参加した学生は、環境教育要件の選択科目修得と同等に、内部監査員資格取得時に 10 ポイント、さらに内部監査に参加・報告時点で 10 ポイントを得ることができる。

5. 環境実践要件

環境政策・企画の立案ができる『科学的地域環境人材』育成のために、実践的教育「On the Job Training」を重視し、下記のいずれかの環境実践を「エキスパート」資格の取得要件とし、センターが認定する。

（1）環境に関する共同研究、異分野・異業種交流の実践

三重大学教員の指導あるいは協働の下、環境に関する共同研究、異分野・異業種交流に携わり、そのテーマが当該教員の申告とセンターの認定により「三重大学の環境研究」に登録された場合（研究・交流実施の時期が過去のものも含む）。

（2）環境に関する卒業論文研究、修士論文研究あるいは博士論文研究の実践

三重大学教員の指導の下、卒業論文研究、修士論文研究あるいは博士論文研究に携わり、そのテーマが指導教員の申告とセンターの認定により「三重大学の環境研究」に登録された場合。

(3) 三重大学環境 ISO 学生委員会活動の実践

三重大学環境 ISO 学生委員会活動に 2 年以上携わり、センターの認定を受けた受講者。

表 G1 地域環境科学必修科目とポイント (10 の基礎分野の概論: 計 100 ポイント: 全てビデオ講義)

分野		講義名	ポイント数
01	環境問題・環境評価法	環境問題・環境評価法 概論	10 ポイント
02	エネルギー技術	エネルギー技術 概論	10 ポイント
03	環境配慮技術	環境配慮技術 概論	10 ポイント
04	環境管理・ESD・SDGs	環境管理・教育啓発論 概論	10 ポイント
05	環境連法・行政	環境関連法・行政 概論	10 ポイント
06	大気・水と食の健康リスク	大気・水と食の健康リスク 概論	10 ポイント
07	自然環境保護・生物多様性	自然環境保護・生物多様性 概論	10 ポイント
08	気候変動問題	気候変動問題 概論	10 ポイント
09	コミュニティ&インバウンド	コミュニティ&インバウンド 概論	10 ポイント
10	環境経済・経営,ESG	環境経済・経営 概論	10 ポイント

表 G2 地域環境科学関連教養教育科目／専門科目とポイント (資格認定に必ずしも必要とされるものではない)

	学部等	授業科目	担当教員	開講 (曜日, 時限)	「地域環境科学」科目群における ポイント付与特定科目		ポイント数
					分野	講義名	
前期	生物資源学部	景観設計論	大野 研	水1・2限	09	コミュニティ&インバウンド (選択科目1科目)	10 ポイント
	教養教育院	生物学	福田 知子	月3・4限 木5・6限 金1・2限	07	自然環境保護・生物多様性 (選択科目1科目)	10 ポイント
		環境科学 (ISO環境管理学)	立石 一希	月1・2限	04	環境マネジメントシステム基礎	10 ポイント
		環境学F (水質・大気の環境科学)	金子 聰	月5・6限	06	環境配慮技術 (選択科目1科目)	10 ポイント